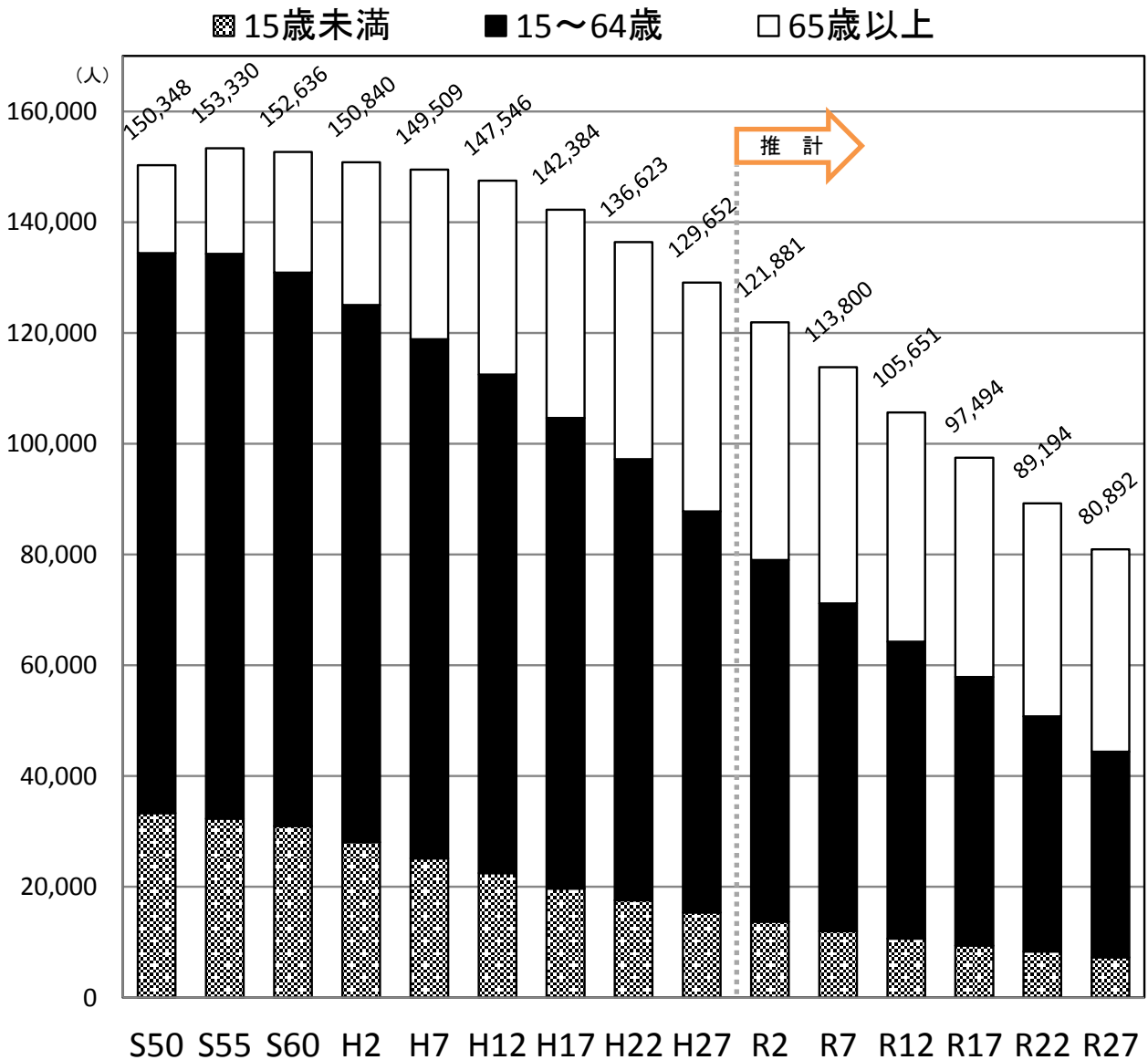


鶴岡市の子どもを取り巻く状況

子どもをめぐる状況

●人口の見通し

本市の人口は昭和30年の177,859人をピークに減少し、平成27年には129,652人になりました。生産年齢人口（15～64歳）は昭和45年の67.2%をピークに平成27年には55.9%に減少しているほか、平成7年には、65歳以上の高齢人口が15歳未満の年少人口を上回り、以後その差は拡大し、少子高齢化が進行しています。

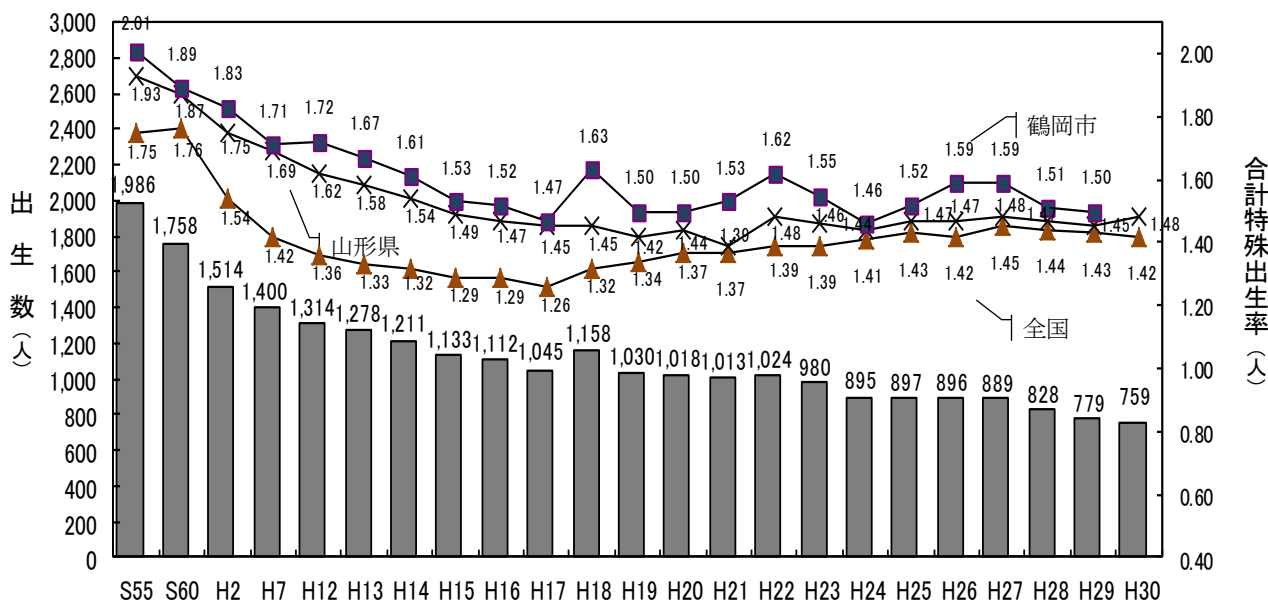


年齢区分別人口（資料：国勢調査。令和2年以降は国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口、平成30年）

●出生数と合計特殊出生率

本市の出生数は年々減少しており、平成 23 年に 1,000 人を切り、平成 30 年の数値（住民基本台帳調べ）は、30 年前の約半分となっています。

また、本市の合計特殊出生率は、全国や県の合計特殊出生率を若干上回るものの、年々低下の傾向にあります。全国や山形県の合計特殊出生率は若干上がっているようにも見えますが、生まれてくる子どもの数の減少に比べ、母親になる年齢層の女性人口の減少が上回ったためと説明されています。

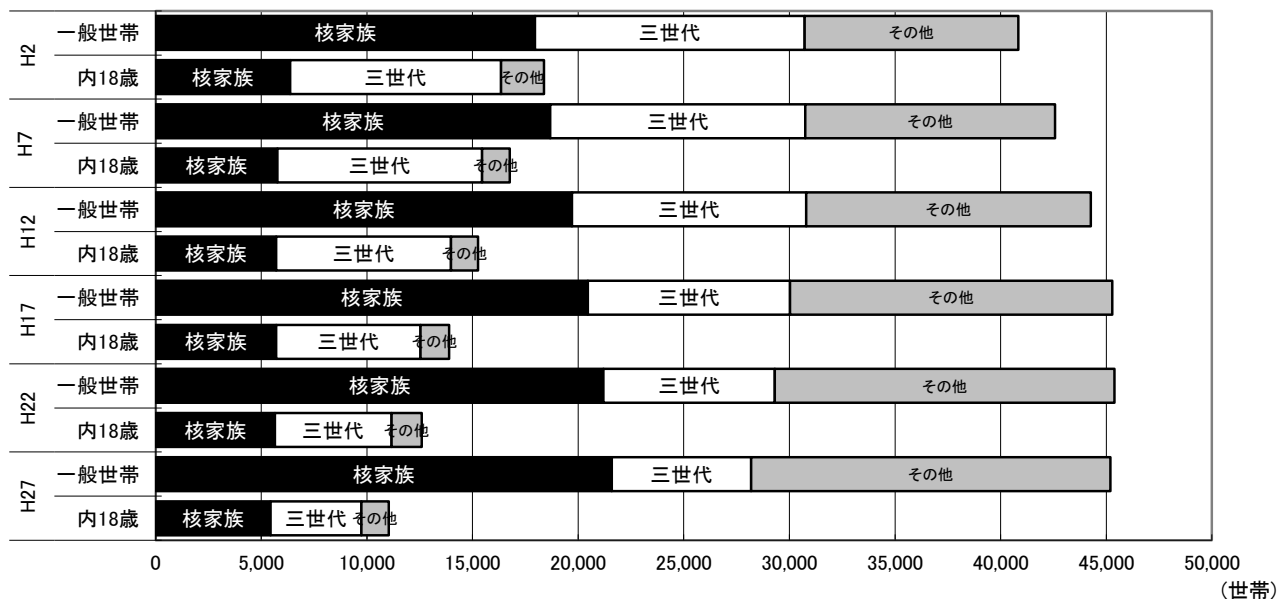


出生数と合計特殊出生率の推移（資料：山形県保健福祉統計年報）

●世帯の状況

核家族世帯の割合は年々増加傾向にあり、平成 27 年は全体の 47.8%が核家族世帯です。一方、三世同居は減少の傾向にあり、それは 18 歳未満のいる家庭でも同様です。

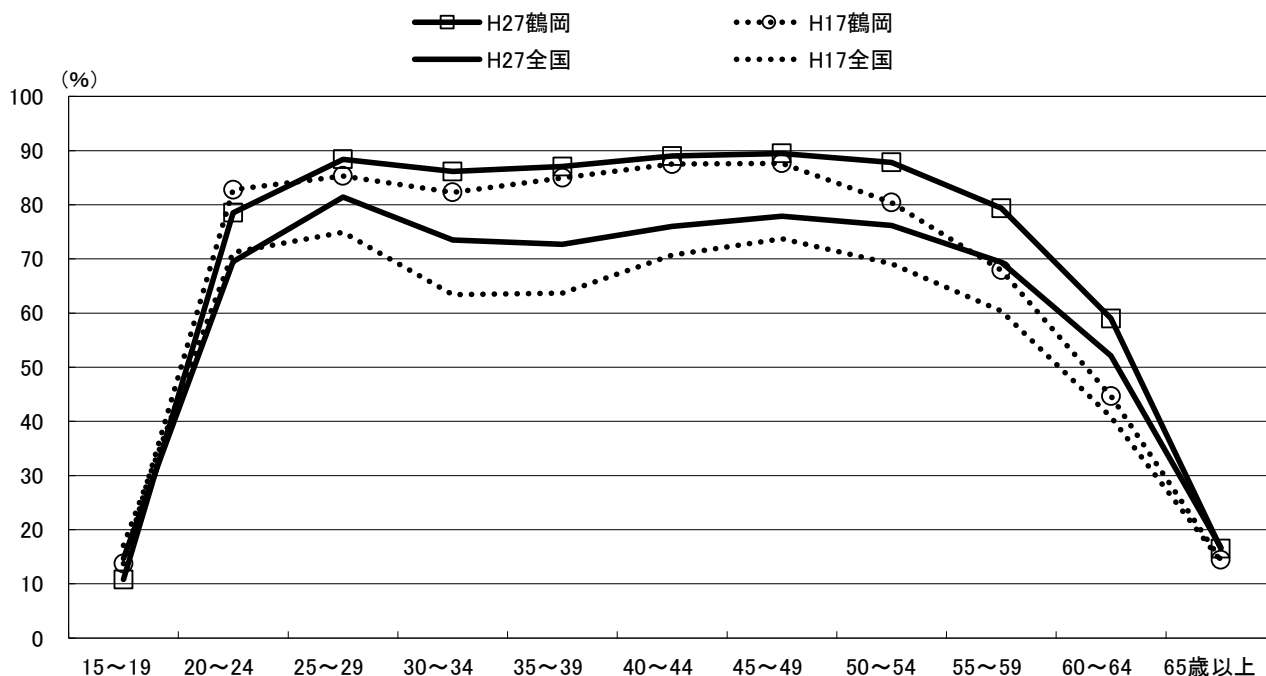
核家族化の進行に伴い、子育ての孤立化や子育て力の低下が問題となっています。



核家族と三世代家族世帯数の推移（資料：国勢調査）

●女性の就労状況

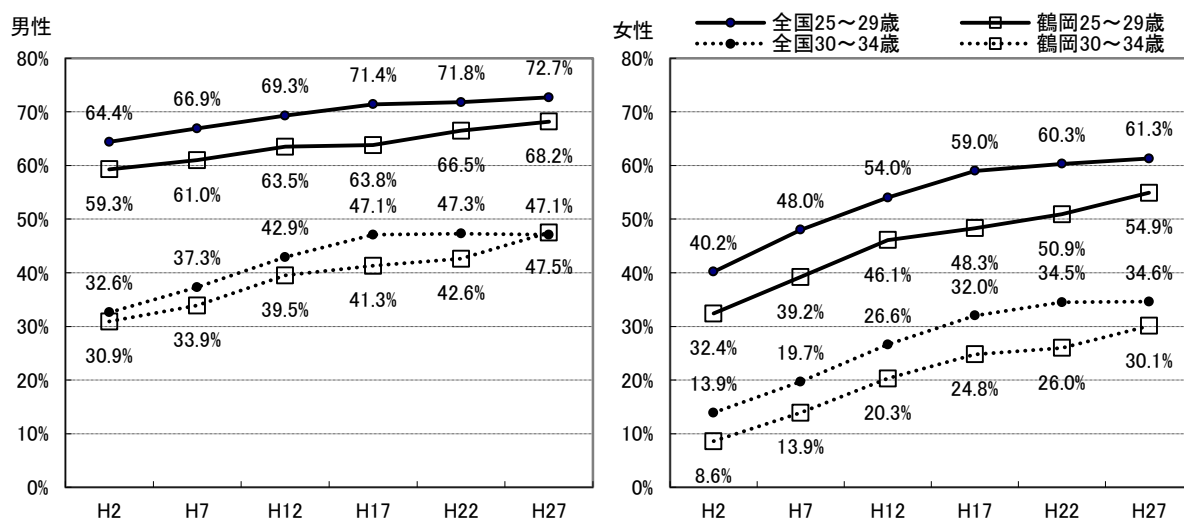
本市の女性の年齢別就業率は、ほとんどの年齢層で全国よりも高い水準にあります。全国的に、結婚や出産期となる20代後半から40代前半には労働力率は下がる傾向にありますが(いわゆるM字カーブ)、本市はその年代でも落ち込みは小さく、子育て期でも働いている割合が高くなっています。



女性の年齢別労働力率 (資料: 国勢調査)

●晩婚化・未婚化の進行

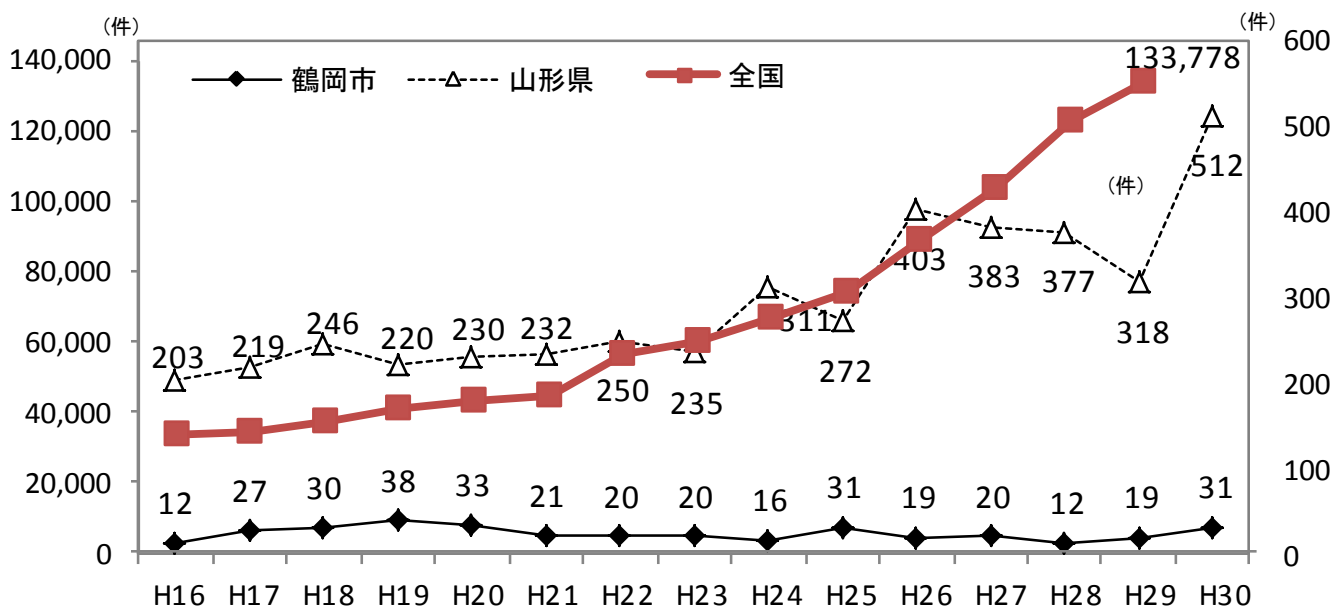
本市の未婚率は、男女とも年々高くなる傾向にあります。平成27年の本市の未婚率は30~34歳の男性が47.5%、女性が30.1%で、全国平均とほぼ同じ割合となっており、晩婚化・未婚化が進行しています。



年齢別未婚化の推移 (資料: 国勢調査)

●児童虐待の相談状況

全国的に問題となっている児童虐待について、本市においても例外ではなく、平成30年度の児童虐待認定件数は31件となっています。



児童虐待の認定件数等 (資料：子育て推進課)

●ひとり親家庭の状況

母子家庭や父子家庭といった「ひとり親家庭」は、近年、横ばいで推移しています。平成27年の本市の母子家庭は615世帯、父子家庭は72世帯となっています（母子世帯・父子世帯は、他の世帯員がいる世帯を含まない）。ひとり親家庭の親は、子育てと生計の担い手という二つの役割を担っており、日常生活の中で様々な困難に直面しています。

ひとり親家庭の世帯数 (資料：国勢調査)

	鶴岡市		山形県		全国	
	H27	H22	H27	H22	H27	H22
一般世帯数	45,198	45,395	392,288	387,682	53,331,797	51,842,307
母子世帯数	615	665	5,265	5,034	754,724	755,972
割合	1.36%	1.46%	1.34%	1.30%	1.42%	1.46%
父子世帯数	72	65	547	508	84,003	88,689
割合	0.16%	0.14%	0.14%	0.13%	0.16%	0.17%

●乳幼児の自閉症など発達が気になる子どもの状況

乳幼児の自閉症など発達が気になる子どもの数は、ほぼ横ばいとなっていますが、正確な数の把握は難しい状況にあります。また、診断等はなくとも発達等の課題が認められる児については、個別の支援を行っている場合もあります。子どもの障害については、早期発見と保護者や保育士がその子どもの障害や特性の理解を深め、それにあつた関わり方や支援を早期に実践することが求められています。

保育園等施設利用している障害児数 (診断ありのみ、資料：子育て推進課)

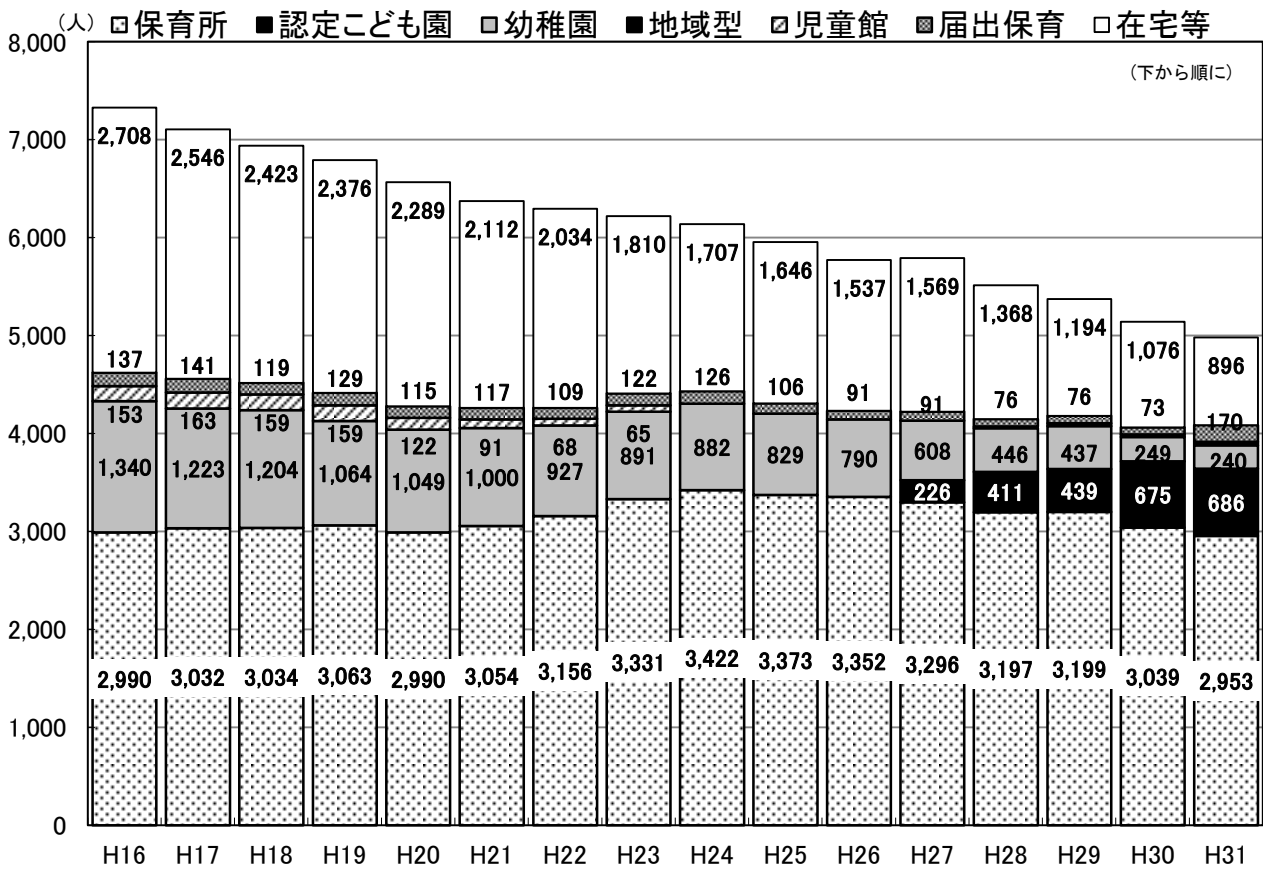
	発達障害児数 ^{※1}	その他障害児数 ^{※2}	合計
H29	55人	19人	74人
H30	49人	23人	72人
H31	48人	23人	71人

※1 診断をあわせ持っている場合でも、診断名の中に発達障害の診断(自閉スペクトラム・ADHD・またはその傾向)がある場合は、発達障害でカウントしています。

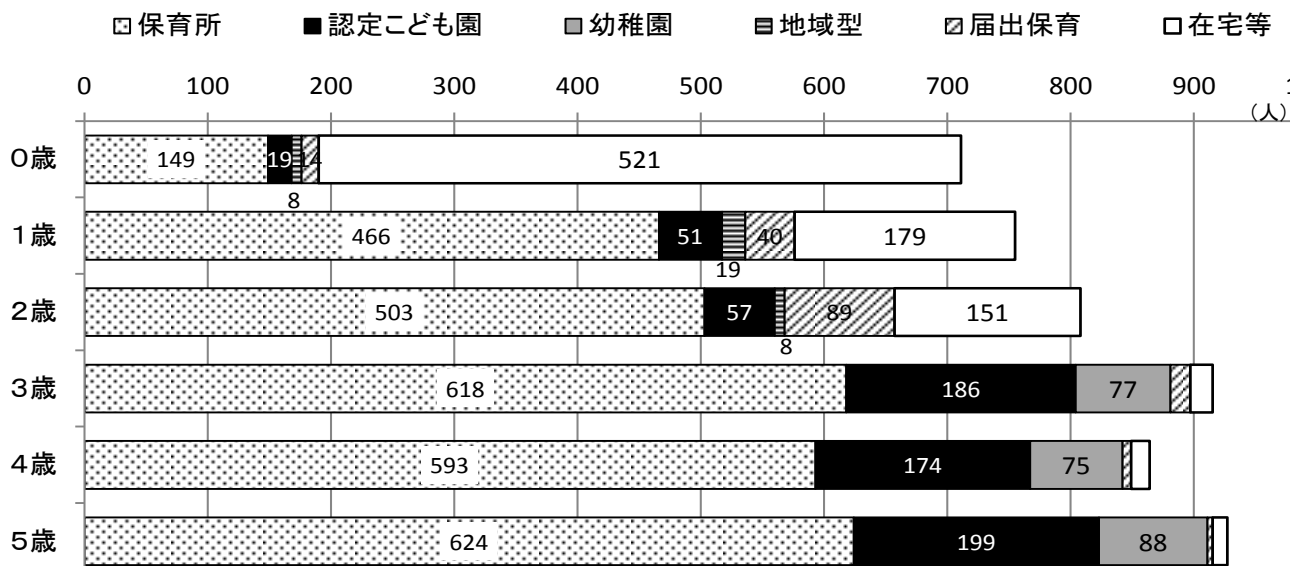
※2 その他障害には、ダウン症児、身体障害、その他発達遅滞、知的障害等も含まれています。

●就学前の保育の状況

就学前の児童数は年々減少していますが、保育所等の施設利用者は増加、家庭保育の児童は減少しています。平成31年4月現在の施設利用者は全体の約8割の4,084人ですが、低年齢児の利用割合は増加の傾向にあり、0歳児26.7%、1歳児76.3%、2歳児81.3%となっています。



就学前児童の保育状況の推移 (資料：子育て推進課)

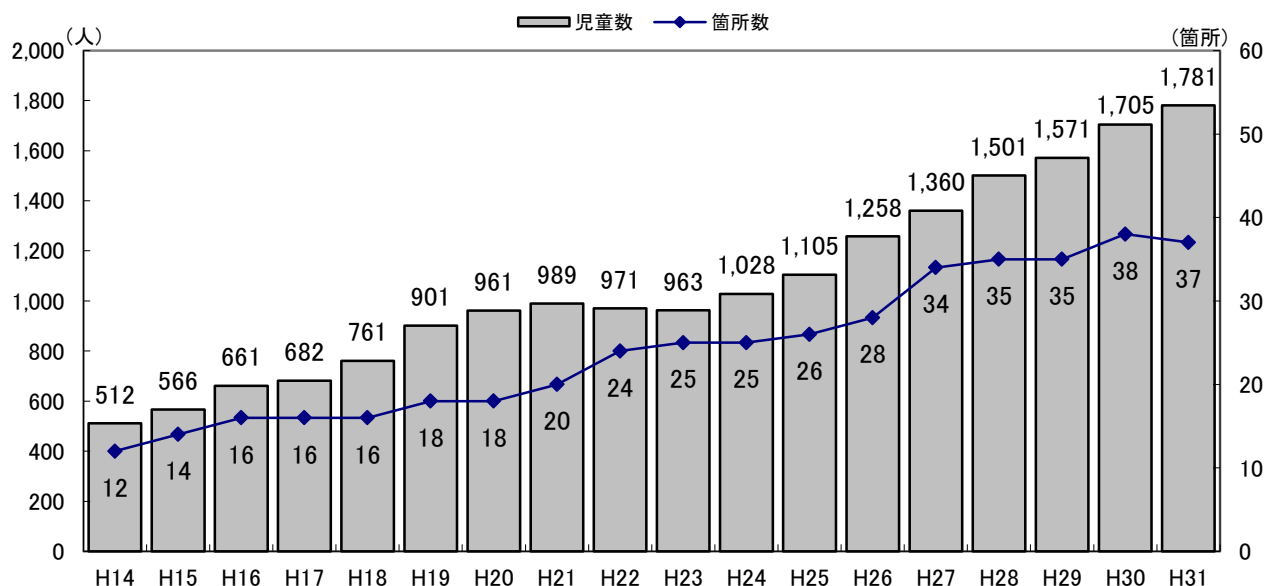


平成31年度年齢別保育状況 (資料：子育て推進課)

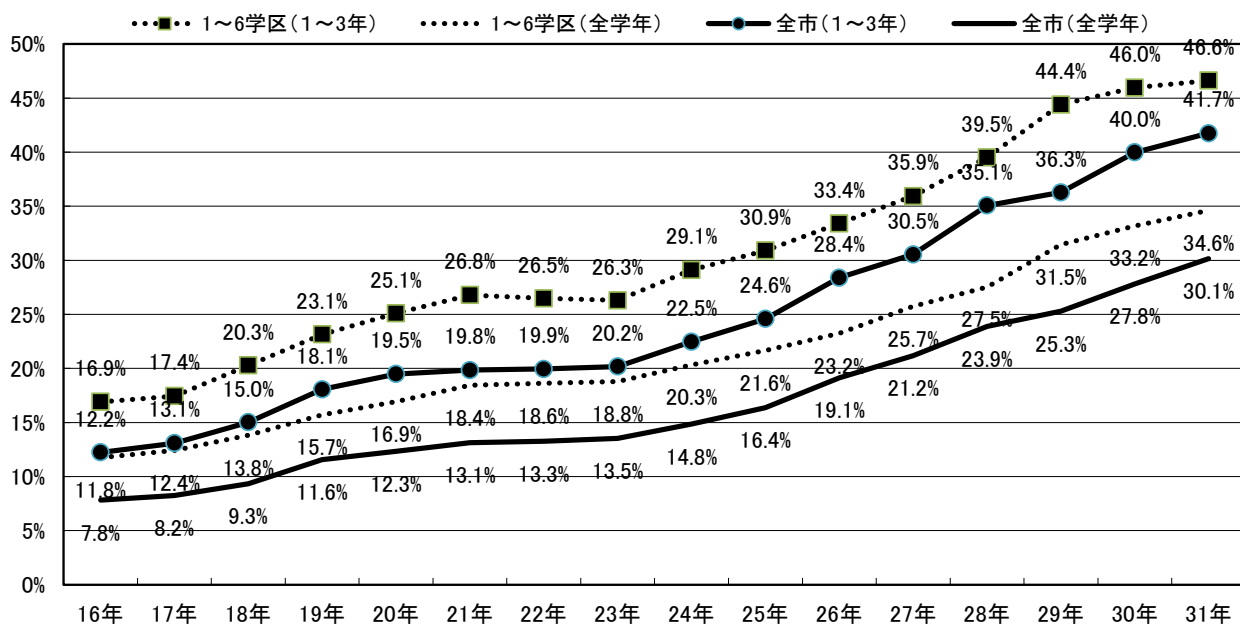
●放課後児童クラブの状況

放課後や長期休暇等の日中、保護者がいない家庭の小学生を預かる放課後児童クラブは、設置数（支援単位数）、登録児童数ともに増加傾向にあります。平成31年度は37支援単位のクラブがあり、1,781人の児童が登録しています。

鶴岡地域市街地の低学年は最も利用率が高く47%、全市の全学年でも30%となっており、少子化で児童は減少しているものの、核家族化や共働き世帯の増加などにより利用者は増加しています。



放課後児童クラブ数と登録児童数の推移（箇所数について、H27以降は支援単位数。資料：子育て推進課）



放課後児童クラブの利用率の推移（資料：子育て推進課）